

癩患者血液接種ニ由ル家兔辜丸ノ變化 竝ニ諸種疾患患者血液接種所見

岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室（主任皆見教授）

江原 猪 知 郎

緒 論

諸種ノ刺戟ニ對シ家兔辜丸ノ極メテ感受性强キモノナル事ハ一般ニ認メラルル所ニシテ余ハ數年來「ヘルペス」研究ニ於テ家兔辜丸ノ應用ヲ論ジ、尙ホ之ガ比較實驗トシテ諸種疾病患者血液竝ニ細菌、絲狀菌等ヲ接種セル實驗成績ニ就テハ既ニ數回ニ互リテ記述セル所ナリ。尙ホ其他多數ノ實驗者ニ據リテ家兔辜丸ヲ應用セル研究ノ發表セラレシ事モ既ニ記載セル所ナリ。而シテ其際癩患者血液ヲ接種サレタル家兔辜丸ハ比較的特異ノ肉眼的竝ニ組織的變化ヲ呈スルモノニシテ、比較的多數ノ患者ニ就テ實驗セルヲ以テ此處ニ報告セント欲ス。即チ癩患者血液ヲ接種サレタル家兔辜丸ハ極メテ速ニ萎縮シ、且組織的ニ他ノ諸種疾病患者血液ヲ接種セルモノヨリモ明カニ區別シ得ル特異ノ變化ヲ呈シ得ルモノニシテ癩診斷ニ多少共便スルアレバ幸甚ナリ。

實 驗 方 法

發育佳良ナル家兔（體重 2 kg 前後）ニシテ辜丸ノ大ナルモノヲ選ビ辜丸實質内ニ 1 cc ノ癩其他ノ疾患ノ患者血液ヲ接種セリ。接種方法ハ「ヘルペス」ノ場合ト同様ナリ。接種後毎日經過ヲ觀察シ翌日ヨリ日ヲ追ヒテ辜丸ヲ剔出シ、剔出辜丸ノ肉眼的所見、重量竝ニ組織像ヲ檢索セリ。辜丸剔出ノ場合ニハ精系竝ニ其動脈ヲ周圍組織ト共ニ結紮シ、其末梢端ヲ切斷セリ。組織的標本染色法ハ「ヘルペス」竝ニ絲狀菌接種ノ場合ト同様ナリ。

癩患者血液接種成績

I. 橋本株

2 日目 陰囊ハ浮腫發赤ヲ呈シ、辜丸實質ノ腫大ヲ認ム。剔出辜丸重量 2.7 g

組織的ニ辜丸周圍ニ於テハ細精管ノ形ハ保存サレ、多少核染色不良ナルモノアルモ、一般ニハ尋常像ヲ呈ス。注射部位ノ精細胞（細精管内部ノ上皮細胞ヲ示ス）ハ萎縮ニ陥リ、其附近ノ精細胞ハ核ハ「クロマチン」ヲ多數含有スルモ細胞體ノ境界不明ノモノ多シ。中ニハ核ノ「ピクノーゼ」ニ陥ルモノアリ。斯ノ如キ所見ヲ呈セル細精管ハ比較的多數ニ存在ス。即チ全然壞疽ニ陥ルガ如キ像ハ呈セズ。副辜丸ハ變化ヲ認メズ。

4 日目 2 日目同様陰囊ハ浮腫發赤、辜丸實質ノ腫大ヲ認ム。重量 2.8 g

組織的ニ辜丸ノ 1 箇所ニ於テ境界不明ノ細胞互ニ密接スル部アリ。細胞體ハ「ヘマトキシリン」ノ色ヲ探リ中ニ核ノ形ノ殘存セルモノアリ。或ハ核ノ認識困難ナルモノアリ。斯ノ如キ像ハ細精管全體ノ細胞ニ認メラル。部位ニ依リテハ赤血球ノ群在スルモノアリ。即チ 2 日目ニ比シテ壞疽ニ近キ所見ヲ呈ス。所ニ依リテ

ハ細精管ノ形ノ良ク認めラルルモノ、或ハ全然之ヲ認識シ得ザル所アリ。斯ノ如キ部位ノ間質ニ於テハ比較的高度ノ充血ヲ見ル。一般ニ間質ノ變化ハ輕度ニシテ、主トシテ充血ヲ見ルノミ。副睪丸ハ Ductus epididymidis (以下單ニ D. ep. ト記ス)ノ上皮細胞ノ形ノ保存サルルモノ、又ハ萎縮セルモノアルヲ認ムル外ニ著變ナシ。

5日目 肉眼的ニ睪丸腫大ハ減少シ、陰囊ニ於ケル浮腫モ亦去ル。剔出睪丸ノ重量 1.4 g

組織的ニ睪丸中央部ニ於テ壞疽像ヲ認ム。即チ 2—3 箇ノ細精管ノ形ノ殘存サルルモノヲ認メ、其ノ中ニ淡紅色ニ染レル不定形物質ヲ認メ、1—2 箇ノ核及ビ數箇ノ精絲ヲ見ル。此部ノ周圍ニ於テハ細精管ノ形ハ認めラルルモ、細胞境界ノ不明瞭ナルモノ多ク、細胞體ハ淡紅色ヲ呈ス。又或ル部ニ於テハ精細胞ノ細精管壁ニ排列シ、中央部ニ於テハ不明瞭ナル像ヲ呈スルモノアリ。尙ホ中央部ニ巨大細胞ノ認めラルルモノアリテ其核ハ邊緣ニ排列ス。間質ハ一般ニ増殖シ、「エオジン」嗜好細胞比較的多數ニ存スル部アリ (Fig. 2)。副睪丸ノ上皮細胞ハ健康ノモノ多ク、D. ep. ノ内容ニハ無數ノ精絲ヲ含有ス。

9日目 肉眼的ニ睪丸腫大ハ認めラレズ。反ツテ縮小シ、陰囊ノ浮腫ハ全ク減退ス。剔出セル睪丸ハ其ノ容積極メテ小ニシテ多少暗褐色ヲ呈シ、重量 0.9 g

組織的検査ニ於テ細精管ノ形ハ比較的良好ク保存サレ、一般ニ精細胞ノ核ハ良ク染マルモ、細胞體ノ透明ナルモノ多シ。又管壁ノミ細胞ノ殘存シ、中央部ニハ無構造物質ヲ含有スルモノモ多シ。間質ニ於テハ所々充血著明ニシテ淋細胞浸潤著明ノモノアリ。尙ホ或ル部ニ於テハ細精管ノ形ノ辛ウジテ保存サルルモノ、或ハ其ノ形全然不明ニシテ結締織細胞及ビ淋細胞ニテ代償サルル部アリ。精細胞ノ多少退化セル細精管ノ中央ニ數多ノ巨大細胞ヲ認ムルモ核ハ中央或ハ邊緣ニアルモノアリテ其ノ大小ハ不定ナリ。恐ラク此像ニ於テハ精母或ハ精娘細胞ノ融合ニ依リテ生ジタルモノナラン。副睪丸ノ D. ep. ノ上皮細胞ハ核ハ著明ナルモ細胞體ノ境界不明瞭ナルモノ可ナリ多シ。

10日目 肉眼的ニ睪丸自己ノ萎縮高度ニシテ小指頭大ナリ。之ヲ剔出スルニ睪丸ノ萎縮甚ダシク、其ノ下半部ハ脂肪様色ヲ呈シ、硬度強ク、重量 0.7 g

組織像ニ於テ細精管ノ周邊部ハ淡紅色ニ染リ、中央部ニ於テハ「ヘマトキシリン」ニテ青色ヲ呈スル顆粒狀物質ヲ認ムル部分多シ。細精管ハ一般ニ縮小シ、核ガ 1—2 列ニノミ存スルモノ多シ。精細胞ノ原形質ノ透明ナルモノモ比較的多數ナリ。前標本ト同様ニ巨大細胞モ亦多數認めラル。間質ハ部位ニ依リテハ多少増殖ノ像アルモ又然ラザル部アリ。副睪丸ニハ著變ナシ。

12日目 肉眼的ニ睪丸ノ萎縮ハ益々甚ダシク、之ヲ剔出スルニ大部分淡黄色ノ硬度比較の強キ小指頭大ニ及バザル物質トシテ認めラル、重量 0.7 g

組織像ニ於テ一般ニ精細胞ノ形ハ不明瞭ヲ殘存スルモノ、或ハ全ク不明ノモノ多シ。或ハ全ク縮小シテ中ニ一ツノ精細胞サヘ認め得ザルモノアリ。又ハ實質間質共ニ淡紅色ニ染リ、唯細精管ト思ハルル部ハ間質ヨリモ多少透明トナル。副睪丸ニ於テ D. ep. ハ殆ド尋常像ヲ呈ス。

要之。接種後 2—4 日目迄ハ肉眼的ニ陰囊ノ浮腫發赤、睪丸實質ノ腫大ヲ來スモノニシテ 5 日目頃ヨリ次第ニ該症狀ノ減退スルト共ニ睪丸實質ハ却ツテ萎縮ニ陥リ、8—10 日目ニ及ブトキハ睪丸ハ腹腔内ニ陥入シ、腹部ヲ下方ニ壓シテ始メテ之ヲ認め得ルニ至ル。睪丸ノ重サ及ビ横

断面ニ於ケル大サハ日ト共ニ縮小シテ 10 日目ハ 2 日目、4 日目ニ比シテ約其ノ 3 分ノ 1 大トナル。尙ホ附記スベキハ辜丸剔出時ニ於テ精系ヲ周圍組織ト共ニ結紮スル場合ニ 2—5 日目等ノ家兎ハ總テ疼痛ノ爲メニ固定セル四肢ヲ動カシ、甚ダシキハ號泣スルモノアルモ、(「ヘルペス」病原體接種竝ニ糸狀菌其ノ他ノ諸種病原體、細菌、血液等ヲ接種シテ之ヲ剔出スル時モ同様ナリ) 8 日目、10 日目ニ及ベバ疼痛ヲ訴フルモノ稀ニシテ奇異ノ感ニ打タルモノナリ。

組織的ニハ初メノ間ノ變化ハ主トシテ實質ノ壞疽像乃至退行變性ニシテ間質ノ侵サル事程度ナルモ次第ニ實質自己ハ萎縮ニ陥リ、終ニハ間質ノ増殖ヲ來シ、結締織細胞竝ニ淋巴細胞浸潤等ニ依リテ代償サルルニ至ル。

II. 眞野株

2 日目 陰囊浮腫發赤、辜丸實質腫大共ニ高度、剔出セル辜丸ハ暗赤色ニ腫大シ、重量 3.1 g

組織的検査ニ於テ一部ノ細精管内ノ精細胞ハ全ク融合シテ「ヘマトキシリン」ノ色調ヲ採リ、唯所々ニ核ノ殘存セルヲ見ル。即チ高度ノ壞疽像ナリ。又一部分ニ於テハ細精管内ニ核ノ明瞭ナル精細胞ヲ認め得ルモノアリ (Fig. 1)。間質ニ於テハ淋巴細胞竝ニ「エオジン」嗜好細胞ヲ可ナリ多數ニ認め、副辜丸ノ變化ハ殆ド無シ。

5 日目 陰囊ノ浮腫發赤、辜丸ノ腫大ハ減少シ、殆ド尋常像ナリ。剔出辜丸ノ重量 2.2 g

組織的ニ 2 日目ト大差ナク、主トシテ壞疽像ナリ。副辜丸ニハ著變ナシ。

8 日目 肉眼的ニ陰囊ノ浮腫ハ全ク減退シ辜丸ハ萎縮シテ腹腔内ニ陥凹ス。剔出辜丸ハ小指頭大ニシテ帶黃色、硬度強ク、0.9 g

組織的ニ細精管ハ萎縮シテ内容ハ空洞トナリ、或ハ中ニ多少ノ核ノ認め得ルモノアリ。間質ハ増殖シ、淋巴細胞或ハ結締織細胞ノ存在スルヲ認め。即チ細精管竝ニ精細胞ノ高度ノ萎縮像トス。D. ep. ハ尋常ナリ。

12 日目 肉眼的竝ニ組織的ニ 8 日目ト大差ナシ。

16 日目 剔出辜丸ハ萎縮甚ダシク、重量 0.7 g、淡黄色ヲ呈ス。

組織的ニ 12 日目ト同様高度ノ萎縮像ナリ。

20 日目 辜丸ノ萎縮甚ダシク重量 0.7 g

組織的ニ間質ノ増殖ヲ見、淋巴細胞、結締織細胞ニテ代償サルルモノ多ク、血管内ニ赤血球ヲ滿シ、細精管ノ内容ガ全ク空虚トナルモノアリ。副辜丸ニ異狀ナシ。

要之。本例ニ於テモ第 1 例ト同様ニ接種後日ヲ經ルニ從ヒ辜丸ノ萎縮ヲ來シ、8 日目、12 日目ニ於テハ既ニ重量モ 3 分ノ 1 ニ減ジ、組織的ニハ初メノ間ハ主トシテ壞疽像或ハ退化變性ヲ示スモ、次第ニ細精管及ビ精細胞ノ萎縮ヲ來シ、間質ノ増殖ヲ來シ、淋巴細胞、結締織細胞等ニ依リテ代償サルルニ至ル。

III. 小川株

4 日目 陰囊ノ浮腫發赤ヲ認め辜丸ハ腫大シ之ヲ剔出スルニ暗赤色、重量 3.4 g

組織的ニ細精管ノ形ハ保存サルルモ中ノ精細胞ハ一ツノ壞疽竈ヲ形成シ、「ヘマトキシリン」ニテ散漫性ニ染色ス。細胞ノ境界ハ不明ニシテ核ハ染色サルルモノ或ハ染色不能ナルモノアリ。中ニハ多少細胞ノ境界明カナルモノモ殘存ス。併シ一般ニ大部分ノ細胞ハ退化變性ニ陥レルモノト見テ誤ナシ。間質ニ於ケル變化ハ著シカラズ。唯所々ニ核ノ染色不良トナリ、或ハ浮腫狀トナル所アリ。且間質ノ多少増殖セル部アリ。副睪丸ニ於テ D. ep. ノ上皮細胞ノ染色稍不良トナレルモノアリ。

脂肪染色ニ於テ壞疽部ニ於テハ核ノ破壊サレシモノハ「ヘマトキシリン」ノ色調ヲ探ルモ脂肪ノ沈着殆ドナシ。細精管ノ形ノ認め得ル部ニテ精細胞ノ中ニ脂肪小球ノ沈着セルモノアリ。壞疽部以外ノ細精管ニ於テ殆ド總テノ精細胞内ニ脂肪小球ヲ認ムルモ其ノ量ハ極メテ少シ。

鐵反應染色法ニ於テ白膜下ノ紡錘形ノ細胞内ニ僅微ノ鐵反應ヲ認ム。

8日目 肉眼的ニ陰囊ノ浮腫發赤ヲ認メズ。睪丸ハ縮小シテ腹腔内ニ陥凹ス。剔出スルニ上半部ハ脂肪色ヲ呈シ重量 2.1 g

組織的ニ細精管ノ形及ビ大サハ殆ド尋常ナルモ中ノ精細胞ハ細胞ノ境界不明トナリ細胞體ハ透明ニナルモノ多シ。部位ニ依リテハ細精管ノ内容ハ殆ド全部ガ透明ナル不定形物質ニ變化シ、其ノ間ニ唯 2—3 箇ノ核ノミ認めラルル所アリ。即チ高度ノ精細胞ノ退化現象ヲ見ル。間質ハ比較ノ増殖シテ淋巴細胞ノ浸潤ヲ認ムルモノアリ。副睪丸ニテ Ductus efferens (以下 D. eff. ト記ス) ノ上皮細胞ガ多少退化變性ニ陥ルモノアリ。

脂肪染色ニ於テ間質ノ増殖セル部ノ細精管ニハ其ノ殆ド總テノ細胞ニ脂肪ノ沈着高度ナリ。其ノ他ノ細精管ノ精細胞ニ於ケル脂肪沈着ハ 4 日目ノモノニ相似タリ。即チ全體ニ多少脂肪沈着アルモ其ノ程度ハ中等度ナリ。巨大細胞ノ體內ニモ脂肪小球ヲ見ル。恐ラク之等巨大細胞ハ退化セル細胞ノ集合セルモノナラン。

12日目 肉眼的ニ陰囊ニ變化ナク、睪丸ハ萎縮シテ剔出スルニ重量 1.2 g

組織的ニ 8 日目ニ於ケルモノト大差ナケレドモ、細精管ノ萎縮高度トナル。而シテ細精管ノ内容ノ漿液様物質ニ滿サルルモノアリ。部位ニ依リテハ巨大細胞ノ數箇認めラルルモノアリ。細精管ノ壁ハ明カニ存在シ、間質ハ可ナリ増殖シ、間質ニ於テ淋巴細胞ノ浸潤比較ノ高度ナルモノアリ。

14日目 睪丸ハ剔出スルニ極メテ萎縮シテ黄色ヲ呈シ、重量 0.7 g

組織的ニ細精管ノ數ハ減少シ、其ノ大サモ萎縮ニ陥ルモノ多シ。其ノ内容亦透明ノモノ多ク僅ニ 2—3 箇ノ核ノ認めラルルモノ、或ハ網様物質ニテ滿サルルモノアリ。中ニハ巨大細胞ヲ數箇含有スルモノアリ。間質ハ極メテ増殖シ、淋巴細胞ヲ多數ニ認めラル (Fig. 4)。

脂肪染色ニ於テ間質ノ増殖セル細精管ノ精細胞内ニハ高度ノ脂肪沈着ヲ見ル。巨大細胞ノ所見ハ 8 日目標本ノモノト同様ナリ。其ノ他間質ノ増殖輕度ナル部ノ細精管内ニモ精細胞體內ニ脂肪ハ中等度ニ沈着ス。

鐵反應染色ニ於テ白膜ノ下竝ニ間質内諸所ニ大サ種々ナル鐵反應ヲ呈スル顆粒ガ紡錘形細胞ノ中ニ可ナリ多數ニ存在ス。

16日目 睪丸ハ全ク腹腔内ニ陥凹シ、之ヲ剔出スルニ極メテ小サク重量 0.6 g

組織的ニモ細精管ノ數ハ極メテ少ナク、一般ノ大サモ亦高度ニ縮小ス。睪丸ノ邊緣部ニ於テハ前標本ト同様ニ細精管ノ内容ハ透明トナリ、數箇ノ核ノミ認めラルルモノアリ。睪丸ノ中央部ニ於テハ細精管ハ結締

織ニ依リテ代償サルルモノ多ク、其ノ中ニ圓形細胞竝ニ僅少ノ「エオジン」嗜好細胞ヲ混ズ。

22日目 肉眼的ニ辜丸ハ全ク腹腔内ニ陥凹シ剔出スルニ黃色、硬度強ク、重量0.8g

組織的ニ16日目ト相似タル像ニシテ細精管ノ萎縮、間質ノ増殖竝ニ圓形細胞浸潤ヲ見ル。

脂肪染色ニ於テ殆ド總テノ精細胞ニ脂肪球ノ沈着ヲ見、所ニ依リテ多少強弱ノ差ハ存スルモ一般ニ脂肪沈着高度ナリ。

鐵反應染色ニ於テハ14日目標本ト同様ナルモ之ヨリハ反應度高度ナリ。

40日目 肉眼的ニ全ク腹腔内ニ陥凹セル辜丸ハ剔出スルニ22日目ヨリモ尙ホ縮小シ、重量0.6g

組織的ニ大部分ノ細精管ハ其ノ形ヲ止メズ。僅ニ殘存セル細精管モ内容透明ノモノ多ク、時ニ1—2箇ノ核ヲ認ムルモノアリ。間質ハ極メテ増殖シ、結締織細胞竝ニ圓形細胞ノ浸潤高度ナリ。部位ニ依リテハ充血ノ比較的高度ナル部アリ。D. eff. ノ上皮細胞ハ多少萎縮ニ陥ルモ尋常像ニ近シ。

要之。初メノ變化ハ實質ノ壞疽ニシテ、間質ハ變化少ケレドモ、血液接種8日目頃ヨリ精細胞ノ萎縮ヲ來シ、日ト共ニ高度トナリ終ニハ實質ハ間質ノ増殖ニ依リテ代償サルルニ至ル。脂肪沈着モ日ト共ニ高度トナリ、鐵反應亦之ニ併行シ本反應ノ由來ハ恐ラク赤血球ヨリ由來スルモノナルベク、辜丸内ノ出血竈或ハ注射セル血液ノモノナリヤハ不明ナリ。辜丸ノ肉眼的大サモ亦日ト共ニ縮小シ、14日目頃ニ於テハ約2分ノ1トナリ、22日目ニ及ベバ3分ノ1位ノ大サトナル。

IV. 三木株

5日目 肉眼的ニ輕度ノ陰囊發赤、浮腫竝ニ辜丸ノ腫大ヲ認ム。剔出辜丸ハ暗赤色ニシテ重量2.6g

組織的ニ細精管ノ大サハ尋常大ノモノ或ハ多少縮小セルモノアルモ内容ハ精細胞ノ核竝ニ細胞體ハ良ク識別シ得ラレ尙ホ多數ノ巨大細胞ガ細精管ノ壁ニ接シテ存在スルモノアリ。其ノ核ハ精細胞ノモノヨリ小サク、且中心ニ位スルモノ多シ。又中ニハ精細胞核位ノ大サヲ有スルモノ群集シテ存在シ多少各細胞ノ境界ノ識別シ得ルモノアリ。斯ノ如キ巨大細胞ハ恐ラク精細胞ノ融合シテ發生スルモノナルヲ示スニ足ル一證ナリ。即チ主トシテ實質ノ萎縮ナルモ中ニハ2—3箇ノ細精管ノ壞疽ニ陥ルヲ見ル。

8日目 肉眼的ニ陰囊ノ浮腫發赤去リ、辜丸ハ多少縮小シテ剔出セルニ重量1.7g

組織的ニ細精管ハ尋常大ノモノアルモ一般ニ萎縮セルモノ多シ。其ノ中ノ細胞ハ核ヲ明カニ認メ得ルモ一般ニ細胞體ハ透明トナリ、中ニハ細精管ノ内容ガ網様不定形物質ニ充サルルモノアリ。又核ノ小ナル巨大細胞ガ細精管ノ中央部ニ數箇認メラルルモノアリ。間質ハ多少増殖シ結締織細胞、淋巴細胞ノ浸潤甚ダシク僅少ノ「エオジン」嗜好細胞ヲ認ム。又辜丸ノ一部分ニ於テハ細精管ハ殆ド消失シテ結締織ニ依リテ代償サルル所アリ (Fig. 3)。副辜丸及ビ附近ノ脂肪組織ハ殆ド尋常像ナリ。

10日目 肉眼的ニ辜丸ハ腹腔内ニ陥凹シ剔出スルニ一部ハ黃色ヲ呈シテ硬度強ク、重量1.4g

組織的ニ細精管ノ大サハ甚ダシク縮小シ、内容ハ空虚トナリ、中ニ數箇ノ核ノ認メ得ルモノ或ハ認メ得ザルモノアリ。尙ホ中央部ニ精細胞ノ融合シテ生ジタルモノノ如キ巨大細胞ノ多數認メラルルモノアリ。間質ノ狀態ハ8日目標本ト大差ナシ。副辜丸ハ尋常ニ近キ像ナリ。附近ノ脂肪組織モ亦同様ナリ。

20 日目 辜丸ハ縮小シテ重量 0.7 g

組織的ニ縮小セル細精管ガ空虛トナリ、或ハ中ニ僅ノ核ヲ有スルモノ、或ハ網様漿液性物質ニテ滿サルルモノアリ。巨大細胞亦前標本ト同様ニ認メラル。間質ハ増殖シ、多小ノ「エオジン」嗜好細胞ヲ認ム。

要之、5 日目ニ既ニ實質ノ萎縮ヲ來シ、辜丸全體ノ大サハ 8 日目頃ヨリ縮小シテ 3 分ノ 1 大トナリ、10 日目、20 日目トテ逐フテ縮小ス。組織的ニモ細精管ノ萎縮ハ 8 日目ヨリ甚ダシク終ニハ間質ノ増殖ニヨリテ代償サルルニ至ル。

以上ハ多數ノ實驗例中代表的ニ日ヲ逐ヒテ肉眼的竝ニ組織的ニ檢索セル成績ヲ極メテ簡單ニ記述セリ。總テノ實驗例ニ於ケル肉眼的組織的所見ハ大體之等ト大同小異ナルヲ以テ此處ニハ別々ニ記載セズ、總括ニ於テ一般的ニ論ゼン。

以上ハ癩患者ノ血液接種ニ依レル所見ナルモ余ハ之ト比較研究ノ目的ヲ以テ癩結節ノ乳劑ヲ家兔辜丸ニ接種セリ。

其ノ所見ヲ述ブレバ、癩結節ヲ切除シ、生理的食鹽水ニテ約 10 倍ノ乳劑ヲ作製シ其ノ 0.5 cc ヲ家兔辜丸ニ接種、接種後 2—3—4 日目ハ血液接種ノ場合ト同様陰囊ノ浮腫發赤ヲ見ルモ該症狀ハ日ト共ニ輕快ス。12 日目辜丸ヲ剔出、肉眼的ニ暗赤色ヲ呈シ、大サ縮小、重量 1.1 g

組織的ニ辜丸 2 箇所ニ於テ 5—6 箇ノ細精管ガ壞疽ニ陥リ、一般ニ細精管ノ大サハ縮小シテ、精細胞ハ退化現象ニ陥ルモノ多ク、或ハ細精管内ハ空虛トナルモノアリ。間質ハ多少増殖シ、圓形細胞ノ浸潤ヲ見ル。副辜丸ニ著變ナシ。即チ此組織像ハ血液接種ノ場合ト極メテ近似セリ。

諸種患者血液接種實驗

余ハ種々ナル疾患ノ患者血液ヲ家兔辜丸ニ接種シ其ク變化ヲ講究シ且前記癩ニ於ケル成績ト比較セリ。

1) 嗜眠性腦炎患者血液接種 (患者ハ發熱後 5 日目ニシテ接種時ノ體溫 40.2°C)

接種後 2 日目 陰囊ニ浮腫發赤ヲ見、辜丸亦輕度ニ腫大ス。剔出スルニ暗赤色ニシテ重量 2.1 g

組織的ニ細精管ノ大サハ普通ニシテ各細精管ノ形ハ良ク認メ得ラル。精細胞ハ一般ニ退化變性ニ陥ルモノ少ク、唯時ニ細胞體ノ透明ナルモノ認メラル。又中ニハ細精管ノ内容ガ不定形物質ニテ滿サルルモノモ 1—2 箇認メラル。間質ニハ著變ナク、所々ニ出血ヲ見ルモノアリ。尙ホ巨大細胞ヲ認メ得ル細精管モ存在シ、其ノ後ハ中央ニアルモノ或ハ邊緣ニアルモノ等一定セザルモノ一般ニ核ノ小ナルモノ多シ。

4 日目 陰囊ニハ尙ホ輕度ノ浮腫アリ。辜丸ノ腫大ハ去ル。剔出辜丸ノ重量 2.2 g

組織的ニ細精管ノ形ハ良ク存シ、内容ハ淡紅色ニ染マレルモノ、或ハ退化變性シテ數箇ノ核ノミ見ユルモノアルモノ一般ニ其ノ變化ハ癩患者血液接種ノ場合ニ比シテ輕度ナリ。精細胞モ其ノ核ハ染色良好ナルモノ多シ。間質ハ只僅ニ増殖シ細胞浸潤ハ極メテ輕度ナリ。

10 日目 陰囊竝ニ辜丸ニ變化ナシ。辜丸重量 1.8 g

組織的ニ前標本ト殆ド大差ナシ。

即チ本例ニ於テハ細精管竝ニ精細胞ニ多少ノ萎縮ヲ來スモ癩血液接種ノ場合ニ比スレバ極メテ輕度ニシテ、「ヘルペス」ノ場合トハ其ノ差極メテ大ナリ。即チ「ヘルペス」ニテハ壞疽像甚ダシクシテ又後期ノ萎縮甚ダ少キモノナリ。

2) 顔面ニ發生セル癩患者ノ血液接種 (患者ハ數日間 40°C 以上ノ發熱ヲ訴ヘ意識亦多少不明ナルモノ)

10 日目 陰囊ノ浮腫發赤ナク、別出辜丸ノ重量 2.2 g

組織的ニ細精管ノ形ハ良ク保存サレ 内容ハ淡紅色ニ染マレル無構造物質内ニ數箇ノ核ノ認メラルモノ或ハ中央部ニ精絲ヲ存スルモノ或ハ全ク不定形物質ニテ滿サルモノアリテ一定セズ。其ノ他所々ニ濃青色(「ヘマトキシリン」ニ)染マレル場所ヲ認メ該部ニ於テ核ノ認メ得ル者アルモ其細胞ノ種類ハ不明ナリ。勿論斯ノ如キ壞疽附近ノ實質ノ變化ハ高度ニシテ其ノ附近ノ間質ハ多少擴大シ圓形細胞ノ浸潤ヲ認ム。

即チ主トシテ實質ノ壞疽ニシテ、間質モ共ニ侵サルモノノ如ク、壞疽ノ程度ハ極メテ高度ナリ。之ヲ「ヘルペス」ノ場合ノ壞疽像ニ比スレバ高度ニシテ癩血液接種ノ場合ニハ斯クノ如キ高度ノ壞疽ハ認メ得ラズ。

3) 結核患者血液接種 (主トシテ膀胱竝ニ腎臟結核ニシテ尙ホ呼吸器系統ノ結核症ヲモ有シ羸瘦貧血甚ダシキ者)

A) 吉岡株 10 日目 肉眼的ニ著變ナク別出辜丸ノ重量 2.4 g。組織的ニ萎縮像ヲ認メラズ、實質竝ニ間質ニ壞疽ヲ認メズ。細精管竝ニ精細胞ハ殆ド尋常ニシテ副辜丸ニモ異常ナシ。

B) 岸岡株 10 日目 肉眼的ニ變化ナク別出辜丸モ尋常ニシテ重量 2.1 g。組織的ニ殆ド尋常像ニシテ只 1—2 箇所ニ於テ細精管ノ中央部ニ巨大細胞ヲ認ムルノミ。

4) 微毒患者血液接種 (第 2 期丘疹、「ワ」氏反應強陽性ノ者)

2 日目 肉眼的ニ多少ノ陰囊浮腫、發赤ヲ認メ、別出スルニ辜丸ノ萎縮ナク重量 1.6 g

組織的ニ細精管ノ形及ビ精細胞ニ著變ナケドモ唯所々ニ細精管内容ノ空虛トナリ、時ニ淡紅色無構造物質ニテ滿サルモノアリ。壞疽像ハ認メ得ラズ。唯 1 箇所ニ於テ精細胞核ノ「ピクノーゼ」ニ陥レルヲ認ムルノミ。又或ル部ニ於テハ細精管内ニ核ノ大小不定ナル巨大細胞ノ 2—3 箇ヲ認メ得ル部アリ。間質ニ於ケル増殖ハ多少認メラレ其ノ部ニ圓形細胞ノ浸潤ヲ見ル。副辜丸ニ異狀ナシ。

6 日目 肉眼的ニ陰囊辜丸ニ變化ナシ別出辜丸重量 1.6 g

組織的ニ細精管ハ多少萎縮シ、其ノ内容ノ網様物質、或ハ健康ノ精細胞ニテ滿サルモノアリ。尙ホ細精管内ニ巨大細胞ノ認メラルモノアリ。間質ハ稍々増殖シテ圓形細胞竝ニ結締細胞ノ浸潤ヲ見ル。副辜丸ニ異狀ナシ。

8 日目 肉眼的ニ 6 日目ト同様ニシテ別出辜丸ノ重量 2.1 g

組織的ニ細精管ハ多少縮小シ、内容ハ空虛ノモノ或ハ網様物質ニ充サルモノアリ。間質ノ狀ハ前標本ト大差ナシ。副辜丸ニハ異狀ヲ認メズ。

10 日目 肉眼的ニ辜丸ハ多少萎縮シ別出辜丸ノ重量 1.6 g

組織的ニ細精管ノ大サハ尋常ノモノ多ク、其ノ中ニハ健康精細胞及ビ精線ヲ含有スルモ尙ホ或ル部ニ於テハ細精管ハ萎縮シテ其ノ中ノ精細胞ノ退化セルモノアリ。又一部ニ於テハ精細胞減少シ網様物質ニテ代償サルモノアリ。間質ハ多少増殖スル部アルモ殆ド尋常ニ近シ。

脂肪染色ニ於テ精細胞ノ或物ニハ脂肪沈着アルモ甚ダ輕微ナリ。所ニ依リテ間細胞ノ細胞体内ニ脂肪球ヲ含有スルモノアリ。

之ト癩患者血液ヲ接種セルモノトヲ比較スルニ微毒血液接種ノ場合ニハ前者程ノ細精管並ニ精細胞ノ變化ナク、日ヲ經ルモ實質ノ變化ハ極メテ輕微ナリ。尙ホ精細胞ノ萎縮ノ認メ得ルモノアレドモ細精管ノ大サハ殆ド尋常ニ近ク、間質ノ増殖ハ甚ダ輕微ナルカ又ハ殆ド認メ得ラズ。明カニ癩患者血液接種ノ場合ト區別シ得ラル。

5) 「マラリア」患者血液接種 (接種「マラリア」患者發熱時)

12日目 肉眼的ニ著變ナク、剔出睾丸重量 2.2 g

組織的ニ細精管ハ萎縮ナク、精細胞モ亦尋常像ニシテ精線ノ數モ多シ。間質ニモ變化ナク、要之尋常像ニ近シ。

6) 膀胱癌患者血液接種

10日目 陰囊、睾丸ハ尋常像、剔出睾丸ノ重量 1.9 g

組織的ニ睾丸ノ一小部分ニ於テ細精管ノ多少縮小セルモノアリ。該部ノ精細胞ハ核ノ染色不良ナルモノ或ハ細胞體ノ透明ナルモノヲ認メ得ルモ大部分ノ細精管並ニ精細胞ニハ變化ナシ。間質ハ多少増殖シテ圓形細胞ノ浸潤ヲ見ルモノアリ。

要之、多少ノ精細胞ノ退化變性ヲ認メ得ルモ癩患者血液接種ニ比シテ其度極メテ輕度ナリ。

7) 狂犬病豫防苗乳劑接種 (傳染病研究所發賣ノモノニシテ之ガ生理的食鹽水乳劑 0.5 cc ヲ接種ス)

5日目 肉眼的ニ陰囊ニ多少ノ浮腫ヲ認メ睾丸ヲ剔出スルニ萎縮ナク、重量 1.8 g

組織的ニ注射部位ニ一致シテ高度ノ出血ヲ見細精管ノ形ハ保存サレ、精細胞核モ良ク染色サルレド、中ニハ細胞境界不明瞭ナルモノモ所々ニ認メラル。間質ニハ變化ナシ。

要之、出血像以外ニハ著變ナシ。

附記 余ハ過去數回ニ亙リテ「ヘルペス」病原體ヲ接種セル家兎睾丸所見ニ就テ報告セルガ、本病原體接種家兎ノ生體染色ニ據ル睾丸ノ所見並ニ本病原體ヲ人ノ睾丸ニ接種セル所見ニ就テ此處ニ附記セントス。

生體染色ハ 2%「リチオンカルミン」液ヲ以テシ、後者ハ初期ノ結核性副睾丸炎ノ患者ニシテ去術ヲ施行スルニ當リ手術 3 日前「ヘルペス」性腦炎家兎腦乳劑ヲ 0.3 cc 接種セルモノナリ。

即チ口唇「ヘルペス」疱疹内容ヲ家兎睾丸ニ接種、接種翌日ヨリ色素ヲ注入シ、8 日目之ヲ剔出シテ組織的ニ檢索ス。睾丸數箇所ニ壞疽ヲ認メ、此部ノ周圍ノ間質ニ於テ「リチオンカルミン」ヲ接種セル細胞ヲ多數ニ認メラレ細胞浸潤甚ダシキ部ハ特ニ多數ニ存在ス。

ニ帶狀「ヘルペス」疱疹内容ヲ接種シテ前者ト同様ニ處置セル辜丸ノ8日目組織像ニ於テ殆ド前標本ト同様ノ組織球形細胞ヲ多數ニ認メ得タリ。兩者共ニ同様ノ組織像ニシテ色素攝取細胞ノ狀モ同様ニシテ兩者ノ間ニ差異ヲ認メ得ズ。兩者共ニ色素ヲ採取セル細胞ハ間質ニ大部分認メラレ、實質ニ之ヲ認ムル事極メテ僅少ナリ。

次ニ「ヘルペス」性腦炎(口唇「ヘルペス」ニ據ル)家兎腦ノ生理的食鹽水乳劑ヲ接種セル人間ノ辜丸ニ於ケル組織像ヲ見ルニ注射部ノ實質間質共ニ一般ニ淡紅色ニ染マリ、中ニ夥シキ核ノ殘骸ヲ認ム。此核ハ精細胞竝ニ浸潤細胞ノモノニシテ多核白血球ノ核ノ如キモノ、又ハ結締織細胞ノモノ等ヲ混ズ。其ノ附近ニハ細精管ノ形ハ存シ、中ノ精細胞ノ核ハ染色惡シク、細胞境界モ稍不明トナル。其ノ間質モ淡紅色散漫性ニ染マリ中ニ多核白血球モ認メラレ、此變化ハ可ナリ廣キ領域ニアリ。即チ家兎辜丸ニ「ヘルペス」毒ヲ接種セル場合ノ所見ト同ジクシテ其ノ中等度變化ニ屬ス。

總 括

以上ノ實驗成績ヲ總括センニ癩患者第1竝ニ第2例ハ共ニ斑紋癩、第3例ハ結節癩、第4例ハ神經癩ノ患者ニシテ、之等ノ實驗ハ前述セル如ク、血液接種後日ヲ逐フテ肉眼的、組織的ニ檢査セルモノナルナリ。尙ホ此他ニ癩患者ノ各型ニ就テ各々數例宛同様ニ血液ヲ接種シテ10日目ニ該辜丸ヲ剔出シ、之ヲ檢査セルモ共ニ既述ノ像ト大同小異ニシテ、此處ニハ各例ニ就テ詳述セズ。唯代表的ノ實驗例ノミヲ擧ゲタリ。

從來ノ研究ニ據リテ一定ノ病原體ト辜丸トノ親和關係ニ就テ記述セルモノ極メテ多ク、微毒「スピロヘータ」、鼠咬症「スピロヘータ」、痘苗、水痘病毒、結核菌、馬鼻疽菌、「トリパノゾーマ」等ノ接種實驗アリ。余等ハ「ヘルペス」病原體ト辜丸トノ親和關係ヲ論ジ、或ハ絲狀菌接種ニ據ル家兎辜丸ノ態度ニ就テ記述セリ。小林氏ハ癩患者ノ辜丸ヲ穿刺シテ癩菌ヲ證明シ、辜丸ト癩菌トノ特異ノ親和性ニ就テ報告セリ。

余ノ實驗成績ニ就テ考按スルニ癩患者血液ヲ家兎辜丸ニ接種スルトキハ速ニ該辜丸ノ萎縮ヲ來スモノナリ。一般ニ家兎辜丸ハ種々ノ刺激ニ對シテ極メテ鋭敏ニ反應スルモノニシテ、且萎縮ヲ來スモノアルモ比較的長時日ヲ要シ、余ノ施行セル種々ノ對照實驗ニ於テ癩患者血液接種ノ場合程速ニ辜丸ノ萎縮ヲ來スモノハ極メテ稀有ナリ。

肉眼的ニ之ヲ檢査スルニ血液接種後2日目、3日目ニハ陰囊ノ浮腫發赤ヲ來スモノ多ク、5日目ニ至レバ該症狀ハ減退シ、辜丸自己モ亦之ト平行シテ腫大スルモノニシテ同様ニ5日目以後ニハ症狀舊ニ復シ、其ノ後速ニ萎縮ノ傾向ヲ有シ、10日目ニ至レバ大部分ノ辜丸ハ腹腔内ニ陥凹スルモノナリ。勿論中ニハ例外アリテ10日目ニ及ブモ腹腔内ニ陥入セズ陰囊内ニ觸ルルモノアリ。尙ホ注意スベキハ家兎ノ辜丸ハ交尾期ニ依リテ大サヲ異ニスルモノ多ク、交尾期ノ辜丸ハ非交尾期ノモノニ比シテ一般ニ其ノ大サ大ナリ。以上ハ肉眼的の所見ナルモ、剔出セル辜丸ニ就テ之ヲ觀ルニ其ノ重量10日目ニ及ベバ2日目、3日目ニ比シテ約3分ノ1大トナルモノ多シ。

組織的ニ検査スルニ接種後2日目乃至3日目ノ像ハ主トシテ實質ノ退化變性或ハ壞疽ニシテ4日目、5日目ヨリ既ニ細精管ノ萎縮ヲ來シ、8日目、10日目ニ及ベバ細精管ノ多クハ退化シテ或ハ精細胞ノ核ハ染色不良ナルモノ或ハ細精管ノ内容ガ不定形物質ニ滿サルルモノアリ。特ニ精細胞ノ原形質ガ透明ニナルハ興味アリ。

間質ニ於ケル變化ハ初メノ間ハ甚ダシカラザルモ5日目以後ニ及ベバ次第ニ増殖スルモノ多ク、且淋巴細胞、結締織細胞、時ニ「エオジン」嗜好細胞ノ浸潤ヲ見、終ニハ萎縮セル細精管ヲ代償スルニ至ル。

精細胞ノ變化ハ種々ナルモ一般ニ細精管ノ萎縮セル部ニ於テハ精細胞亦退化變性ニ陥ルモノニシテ、變化輕度ナル部ハ核ノ染色不良、細胞體ハ透明、且其ノ境界不明トナルモ、變化ノ甚ダシキハ細精管内ニ數箇ノ核ノミノ見ユル事、或ハ全ク變性シテ不定形、網様物質ニ代償サルルニ至ル。

脂肪染色ニ就テ見ルニ癩患者血液ヲ接種セル場合ニ2日目、3日目頃ニ於テハ壞疽部ノ周圍ノ細胞内ニ脂肪沈着ヲ見ルモ、日ヲ逐フテ其ノ沈着甚ダシク、10日目以上ニ及ベバ、萎縮セル細精管ハ殆ド脂肪沈着ニ充サル。然ルニ健康家兎辜丸ハ脂肪染色殆ド陰性ニシテ、尙ホ微毒患者血液ヲ接種シテ辜丸ノ萎縮ヲ來セル10日目ノ辜丸ノ脂肪染色ヲ癩患者ノ夫レト比較スルニ前者ハ後者ヨリモ脂肪沈着甚ダシク僅微ナリ。

癩患者血液接種後ニ起ル辜丸萎縮ノ原因ハ確定スルヲ得ザルモ、脂肪沈着ノ可ナリ甚ダシキニ鑑ミ、恐ラク先ヅ精細胞ノ退化ニ次デ脂肪沈着ヲ來シ原形質ガ透明トナルモノノ如ク、且後ニ間質ノ増殖ヲ來シテ萎縮ニ陥ルガ如シ。壞疽ヲ來セル後ニ原形質ノ透明トナルモノナリヤ否ヤハ確定スル能ハザルモ必ズシモ壞疽竈ノミニ限局スル事ナク、全辜丸ニ退化變性ノ及ブ(勿論壞疽竈ニハ後ニ間質ノ増殖著シキモノナレド)ヲ以テ何等カノ毒素ノ爲メニ退化變性ヲ來スモノト思惟ス。癩患者ニハ後期ニ辜丸ノ萎縮ヲ見ル事多シト聞キ事アリ。之ト余ノ實驗トヲ併セ考フレバ甚ダ興味アル事實ナリト信ズ。加之癩結節乳劑ヲ接種セル後ニ於テモ殆ド同様ノ變化ヲ呈セルガ故ニ何等カノ關係アルベキヲ思ハシムルモノナリ。但シ血液中ニハ癩菌甚ダ少キモノニシテ殊ニ1cc中ニハ殆ドナシトモ云ヒ得バク(特ニ神經癩ニ然リ)之等ノ變化ハ直接癩菌ニ依リテ起ルトハ考ヘラレザルモ之等ノ點ハ後日ノ研究ニ讓ルコトトス。副辜丸ニ於テハ退化現象少キモノノ如シ。以上辜丸ノ變化ハ神經癩ト結節癩トニ於テ余ノ行ヘルモノニテハ差異少キモノノ如カリキ。

次ニ辜丸ニ發現スル巨大細胞ニ就テ一言セン。

種々ナル疾病ニ際シテ巨大細胞ノ發現スル事ハ從來度々稱ヘラレタル所ニシテ Maximow 氏ハ辜丸巨大細胞ヲ Spermiden-Riesenzellen 及ビ Spermioeyten-Riesenzellen ニ分チ、之ガ發生徑路ニ關シテハ前者ハ精細胞ノ融合又ハ肥大精細胞ノ直接核分裂ニ依リテ形成サレ、後者ハ造精細胞ノ融合又ハ肥大造精細胞ノ核ノ斷裂ニヨル直接核分裂並ニ其ノ間接核分裂ニヨリテ形成サルト。椎名氏ニ據レバ辜丸細精管内ニ見ル巨

大細胞ハ上皮性細胞ノモノニシテ組織球等ノ侵入ニヨリテ生成サルルモノニ非ズトシ、氏モ亦巨大細胞ヲ分チテ Maximow 氏ト同様ノ二種ヲ分チ、尙ホコノ外ニ之等兩者ノ移行型ヲモ認メ、Spermiden-Riesenzellen ノ成因ハ專ラ融合ニ據リ、Spermiocyten-Riesenzellen ノ成因ハ一ツハ融合ニヨルモノ、一ツハ肥大セル細胞ノ間接核分裂ニヨリテ核ノ數ヲ増シ細胞體ノ分裂ノ之ニ伴ハザルモノニ因ルト稱フ。

余モ「ヘルペス」病原體竝ニ糸狀菌接種辜丸ニ於テ巨大細胞ノ出現ヲ記述セシガ、本實驗ノ際認メタル巨大細胞ハ細精管ノ中央ニアルモノ或ハ其邊緣ニ接シテ存在スルモノアリテ部位ハ一定セザレドモ、其ノ數ハ1—5—6箇ノモノ多シ。核ハ一般ニ小ナル核ノ細胞ノ邊緣ニ排列スルモノ或ハ中央ニ集合スルモノアリテ其ノ數ハ3—10箇位ナリ。時ニハ核ノ可ナリ大ナルモノアリ。尙ホ切片ノ或ルモノニ於テハ巨大細胞ヲナス精細胞ノ境界ガ認メラルル程度ノモノアリ。大サハ精母細胞ノ2—3倍位ニシテ形ハ主トシテ圓形ノモノ多シ。巨大細胞發現ノ時期ハ一定セザレドモ主トシテ5—20日目頃ノ切片ニ認メラレ、精娘竝ニ精母細胞ノ退化變性ニ陥ル時期ニ多キモノノ如シ。而シテ之ガ成因ニ關シテハ精母或ハ精娘細胞ノ融合ニ據リテ成立サルモノト思考サル。且核ノ大ナルハ前者、小ナルハ後者ニ因ルモノト信ズ。

尙ホ癩患者血液ヲ接種セル辜丸ノ剔出時ニ於テ8—10日目以上ニ及ベバ疼痛ヲ訴フル家兎ハ少クシテ、如何ナル原因ニ依リテ斯ノ如キ症狀ノ來ルカハ不明ナルモ癩疾患ニ知覺麻痺ノアルニ鑑ミ興味アル現象ナリ。

次ニ諸種疾病患者血液ヲ接種セル對照實驗ト比較センニ肉眼的ニ大多數ノ場合ニ於テ2—3日目ニ陰囊ノ浮腫ハ認メラルルモ、組織的ニ「ヘルペス」ノ場合ニ於テハ實質ノ壞疽ハ認メラルルモ其ノ像ハ異リ、且之ニハ細精管ノ萎縮ヲ伴フ事少シ。其ノ他既述セル流行性瀉炎、結核、微毒患者等ノ血液接種ノ場合トハ明カニ區別シ得ルモノニシテ癩患者血液接種ノ場合ノ如クニ高度ノ萎縮ヲ見ルモノハ全ク無シト謂ヒ得ベシ。唯微毒性丘疹患者ノ血液接種ニ依リ多少精細胞ノ萎縮ヲ認メシモ之トテモ癩血液ノ夫レニ及バザルコト遠キモノナリ。素ヨリ之等諸種疾患患者ノ血液ヲ接種シテ起レル所見ハ必ズシモ特異ナリト云フ能ハザルモ、多數ノ實驗ニ依リ自ラ多少ノ差異アルモノノ如ク、實驗成績中ニ於テ多少之ニ言及セリ。

結 論

1) 癩患者血液ヲ家兎辜丸ニ接種シテ其ノ肉眼的竝ニ組織的所見ヲ檢索セリ。

肉眼的ニ血液接種後2—3日目ニ於テ陰囊ノ浮腫發赤ヲ見、5日目以後ハ該症狀減退ス。辜丸自己ハ2—3日目ニ腫大シ5日目以後ハ次第ニ萎縮ニ陥ル。

2) 組織的ニ2日目、3日目ニ於テハ主トシテ實質ノ退化變性乃至壞疽像ニシテ5日目以後ニハ細精管ノ萎縮、精細胞ノ退化變性ヲ見、特ニ原形質ハ透明トナルモノニシテ恐ラク脂肪沈着ニ因ルモノノ如シ。後間質ノ増殖、細胞ノ浸潤等ニ依リテ代償サルルニ至リ、尙ホ細精管ノ形ノ殘存セルトキニ種々ノ大サヲ有スル巨大細胞ヲ認ムルコトアリ。

3) 他ノ諸種疾病患者血液ヲ同様ニ家兔睾丸ニ接種セルニ肉眼的竝ニ組織的ニ癩患者血液接種ノ場合ト明カニ區別シ得タリ。

拙筆スルニ當リ常ニ懇切ナル御指導ヲ賜ヒ且御鞭撻ヲ賜ヒタル皆見教授ニ謹デ深謝ス。

(2. 11. 5. 受稿)

文 獻

- 1) 江原, 岡山醫學會雜誌, 第 432, 435, 443, 444, 447, 450, 454 號. 2) 江原, 皮膚科泌尿器科雜誌, 第 27 卷, 9 號. 3) 皆見, 江原, 東京醫事新誌, 2434 號. 4) 小林, 皮膚科紀要, 2 卷, 3 號, 6 卷, 1 號. 5) 小林, 皮膚科泌尿器科雜誌, 24 卷, 5 號. 6) Maximow, Ziegler's Beitrag. Bd. 2f. 7) 椎名, 北海道醫學會雜誌, 第 2 年, 5 號.

附 圖 說 明

Fig. 1. 癩患者 (眞野株), 血液接種後 2 日目, 細精管ハ一部 (右側) 壞疽ニ陥レルヲ示ス。

Fig. 2. 血液接種後 5 日目 (橋本株), 睾丸實質ノ萎縮ヲ認メ, 精細胞ハ退化變性ニ陥リ, 多數ノ巨大細胞ヲ認ム. 間質ニハ淋巴細胞竝ニ僅少ノ「エオジン」嗜好細胞ノ浸潤ヲ見ル。

Fig. 3. 血液接種後 8 日目 (三木株), 大部分ノ細精管ハ萎縮シ, 間質ノ増殖甚ダシ。

Fig. 4. 血液接種後 14 日目 (小川株), 細精管ハ全ク退化萎縮シテ其ノ形ヲ止メザルモノ多ク, 或ハ空洞トシテ認メラレ, 間質ノ増殖甚ダシ。

上圖ハ總テ Zeiss 接種 10×, 接物 5× ナリ。

江原論文附圖

Fig. 1.



Fig. 2.

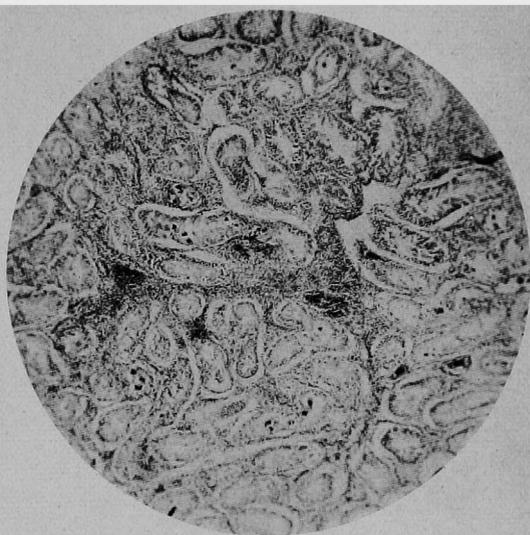


Fig. 3.

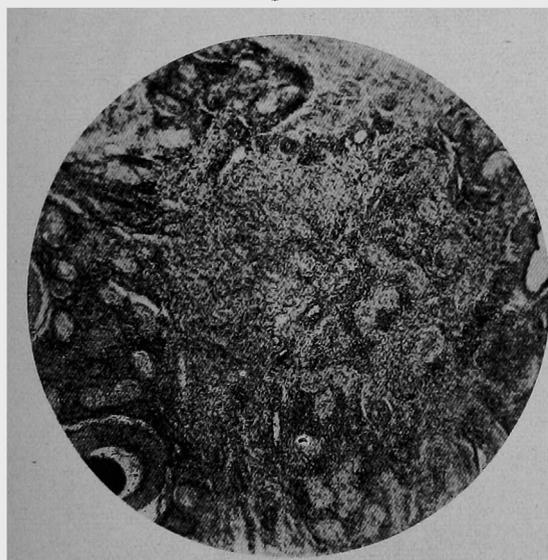
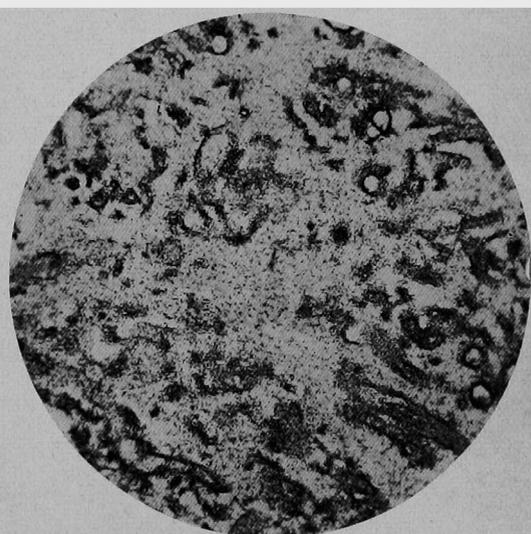


Fig. 4.



Kurze Inhaltsangabe.

**Die Veränderung des mit Leprablut geimpften
Kaninchenhodens.**

Von

Ichiro Ehara.

Aus der Universitäts-Hautklinik in Okayama

(Vorstand: Prof. Dr. Seigo Minami).

Eingegangen am 5. November 1927.

Wenn man 1 cc Leprablut testikular am Kaninchen injiziert, schwillt der Hoden einige Tage rötlich an, aber nach 4—5 Tagen schwillt er wieder ab, um dann allmählich immer kleiner zu atrophieren, bis er nach 10—15 Tagen nur noch den dritten Teil der normalen Grösse hat.

Histologisch zeigt der Hoden zuerst Degeneration oder Nekrose der Samenzellen, aber nach 5—6 Tagen wird ihr Zelleib fast überall hell—wahrscheinlich infolge der Fettinfiltration—und schliesslich wuchert das Interstitium mit Lymphocyten-Infiltration. Oft beobachtet man im Samenkanälchen viele Riesenzellen, welche möglicherweise durch die Konfluierung der Spermiocten und der Spermiden entstehen. An den Spermiocten-Riesenzellen sind die Kerne gross, dagegen an den Spermiden-Riesenzellen klein.

Ich habe als Kontrollversuche das Blut der Pat. von verschiedenen Herpesarten, Encephalitis lethargica, Furunkel, Phthisis, Lues papulosa, Malaria, Blasenkrebs und ausserdem Lyssavaccin am Kaninchenhoden inokuliert. Bei diesen Versuchen kam zwar oft Nekrose oder Degeneration im Parenchym vor, jedoch ist keine so hochgradige Atrophie wie beim Lepraversuch zu konstatieren.

Erklärung der Abbildungen. Fig. 1: Degeneration der Samenzellen, 2 Tage nach der Inokulation. Fig. 2: Atrophie der Samenzellen, 5 Tage nach der Inokulation. Fig. 3: Atrophie der Samenzellen und Wucherung des Interstitiums nach 8 Tagen. Fig. 4: Befund nach 14 Tagen.

